

1) 開会（事務局）
2) 挨拶（柴地域産業担当部長）
3) 座長選出 ※宗岡委員を座長として選出
4) 協議会開催前に依頼（宗岡委員から） 本年度環境情報協議会の開催にあたり、委嘱や開催案内、資料送付などが直前まで連絡もなく依頼されたため、協議会出席のための事前準備など全てが後手に回る状況となっていた。 このため、委員や事務局担当が変わっても協議会開催が正常に迎えられるような仕組み作りに向けて、2点依頼したい。 ・本年度の開催通知等、一連の対応がなぜ直前までかかってしまったのか、原因を究明し、客観的に説明してほしい。 ・来年度以降について、いつまでに何をするか、スケジュールを明確に示してほしい。
5) ①環境情報協議会の設立経緯について（事務局） ②田園環境整備マスタープランについて 概要：事務局 各町：根室市、別海町、中標津町 ③情報提供（事務局） ※過去協議地区（草地事業）の整備後の牧草（バラサイレージ）収穫状況動画 コントラクター（有人）による作業、ほ場からバンカーサイロまで運搬 ④計画策定地区の説明及び意見交換等 ※下記、議事録のとおり

■ 齒舞地区について説明（説明者：農村振興課青木係長、資料P22～P25）
<input type="checkbox"/> 路線近傍の高層湿原について <input type="radio"/> 外山委員 工事路線の近くにある高層湿原の部分には希少植物などもあるので、地下水位を下げない様な対応や湿原側に食い込む様な形での退避場を設置などは避けてほしい。 <input type="radio"/> 青木係長 道路側溝としては基本的に道路の表面水の排除が目的なので、湿原側に食い込む様な形で必要以上に掘り下げていくことは極力避ける形で検討を進める。
<input type="checkbox"/> 用地補償費について <input type="radio"/> 宗岡委員 用地補償費の用途としては、前回整備から新たに必要となる退避場の設置など必要最小限の用地補償にとどまるのか、他にも大きな用地補償があるか。 <input type="radio"/> 青木係長 基本的には退避場設置部分の用地補償になる。路線上で所々にあるカーブ箇所については高低差もあるため、その区間は現況路線沿いに線形を見直して若干カーブを緩くする計画としているため、

一部用地買収が必要となるが、路線の位置を大きく逸脱するような形にはならない。

○滝本委員

現況路線の周辺には、防風林や防雪林などは無いのか。また、用地補償費が約3億というのは結構大きな額だと思うが。現地は見えていないが、道路はどのような状況か。

○青木係長

現況路線には防風林などはないが、路盤は古いため、表面に凸凹があり、表面の砂利も少なくなっているため雨が降った時には表面がドロドロになり、大型機械の走行性が悪くなるような状況。

費用については用地補償費だけではなく、測量設計費も含まれており、大きくは測量設計費の費用となっている。

□工事期間について

○宗岡委員

令和14年完了予定ということで、仮に令和9年度から工事を始めても5～6年で5km程の延長があるため、毎年ある程度長い路線を工事しなければならないと思う。

○青木係長

次に説明する別海町の地区と比べれば、こちらの地区の方が年度毎の工事延長は少し長い形になっている。

○宗岡委員

鳥類への配慮等、工事時期が夏の後半以降から降雪前までとなると工事が大変だと思うが、力を入れて進めてほしい。

○宗岡委員（まとめ）

路線東側に湿原があるので、地下水位を下げないことや自生植物、水質、鳥類の営巣などへの配慮、退避場の位置関係などを考えた上で工事を進めてほしい。

■北矢中央地区について（説明者：農村振興課青木係長、資料P26～P29）

□図面上の起点及び終点について確認

○上田委員

図面上の起点と終点が、工事（工期）のスタート地点となるのか。

○青木係長

農家の営農作業等も踏まえて、どちらから工事を進めるか検討するため、現時点では特にどちらからスタートするかは決めていない。

○上田委員

終点側には農家が隣接しているので、営巣等への配慮だけではなく、農家の繁忙期と工事が重なって作業しに行けなくなるとかがない様に、工期にも配慮すると農家はありがたいと思う。

○青木係長

隣接農家とは、作業時の交通環境も含めてスケジュールを打合せしながら調整して工事を進めていく。

□路盤構成について確認

○宗岡委員

工事内容としては、凍上抑制層から下層路盤まで全部入れ替え、アスファルト安定処理して表層をかける形の道路改良工事と考えて問題ないか。

○青木係長

そのとおり。工種の表現は各事業の制度に沿って記載しているので他地区と異なるところもあるが、別海町での道路改良工事については置換厚が90cmという形で計画している。

□終点付近の保安林について

○外山委員

保安林自体については乾燥していて湿地等もできていないところだと思うので、水関係はそこまで気にしない形でも良いと思う。従前通り、営巣時期や繁殖期などに配慮していただきたい。

○宗岡委員（まとめ）

鳥類の営巣や繁殖時期に配慮した工事時期とすることと、隣接農家の意向も十分踏まえて道路工事を進める場所の優先順位を検討していくことを配慮して工事を進めてほしい。

■中標津東部地区について（説明者：農務課島田主任、資料P30～P33）

□工事内容について

○外山委員

工事内容としては、全て起伏修正なのか。

○島田主任

そのとおり。

○外山委員

起伏修正は、表土を結構ひっくり返すような工事だったか。土砂の流入とかはあまり気にならない程度のものか、河川沿いのほ場も多いので少し気になったところ。

○宗岡委員

事前に受けた説明では、基本的に凸凹しているのが表層15cm～20cm程度なので、その凸凹をならして播種して、農家に引き渡す形になっている。土砂の流入とかはそこまで気にはならないものと考えて良いと思う。

50cm程度土を起こすとなる場合は表土を一度別な場所によけて、下層土で不陸をならした上に表土を戻すという形もあるが、今回の地区ではそこまでを要するものではないと聞いている。

○藪中主査

あとは工事の際に、雨降りの時期に気をつければ対応できると考えている。

○宗岡委員

受注した業者に対しては、工事の際に留意点として傾斜地から土砂が水系に流入しないように抑制することなど、状況を判断しながら工事を進めてもらうように対応をお願い。

□標津川流域での工事について

○滝本委員

下流にある標津川や茶志骨川の付近で草地整備事業をしているときも、漁業者の目は厳しい。

上流部に中標津町が位置しているが、平成10年代にはそこから土砂や家畜糞尿が流出して魚が捕れなくなったと公然と言っていた時代もあった。

近年は理解も深まってきているが、今はサケ・マスが不漁の状況になっていることもあって漁業者もナイーブになっていて、草地整備事業の方に目がいってしまうこともあるので、不陸均しだけとは言っても業者には十分に配慮するようお願いしたい。

○宗岡委員

漁業側やマスコミの目もあるほか、暗渠など色々な工事によって土砂が出るという意識も漁業側にはあると聞いているので、工事側から水系への配慮などについて謙虚をお願いしたい。

○宗岡委員（まとめ）

受注業者に対して、浅い層での工事とはいえ降雨時には工事を少し待つなどの配慮を十分をお願いしたいことと、水系の下流域は漁業域でもあるので、水質環境に対する地域全体の目などにも耳を傾けて、謙虚に取り組む姿勢をもって進めてほしい。

■西春別北一号線地区について（説明者：別海町事業課松本主任、資料P34～P41）

□河川横断箇所について

○宗岡委員

一箇所河川横断する水系があり、既設管をボックスカルバートに変えるということで、これは強度が既設管より強いことになるか。また、流路の断面積は大きくなるのか。

○松本主任

既設管に比べて、強度は強くなり、断面積も現況より大きくなる。

○宗岡委員

最近ではゲリラ豪雨や線状降水帯など、局地的な豪雨があつて、思わぬところで非常に水が流れてしまう事が時として起こりうるので、水環境とかも大事だが、流量に意識を置いて裁量の範囲内でできるだけ通水断面を確保していくことは大事になると思う。

□環境配慮について

○外山委員

現地の感じがわからないが、魚の遡上があるような大きい川ではないのか、周りに湿原などでタンチョウなどの営巣場所がないかなど、時期的なものに配慮しながら進めていただきたい。

○滝本委員

図面で見ると、国有林のところで河川が止まっている様に見えるが。

○松本主任

図面外のところで、最終的には虹別川に合流する形になっている。

□路盤構成について確認

○宗岡委員

今回協議している他の道路工事と一緒に、幅としては三種五級の4m幅で一車線扱いという形になっている。深さは凍上抑制層まで含めて90cmとなっているが、場所によって置換厚は異なるか。

置換厚は過去30年の寒さによる理論凍結深さに準じてやっていると思う。十勝の足寄町だと110cmとか、小樽市だと80cmとか異なると思うが。

根室管内はほぼ90cmだと思うが、場所によっては90cmより深くなる場合もあるかと思う。

○宗岡委員（まとめ）

河川横断位置をボックスカルバートにすることで強度も強くなり、排水に関する問題が解決できる形になるが、そのことが鳥類への影響などが水系にインパクトを与えないように配慮しながら工事を進めてほしい。

■今回の会議を通じた全体のまとめ等

□各委員より協議会全体を通じた意見について

○山下委員

道路の現地を見た時、素人目線からは凸凹もなくきれいな道路だと思い、ここに何億もかけるのかと思ったが、かなり砂利を入れているとか、傾斜もあって雨が降ったら大変だろうなということも分かったので、現地を見るとか、話を聞かないと分からない事情も分かった。

中標津町の方が凸凹のところがたくさんあるので、別海町はすごいなと正直に思った。こういう道路は直さないで農家が大変だなと感じた。

○宗岡委員

根室管内の1市4町は全国でも非常に有名で、そういうところに観光客が来た時に、乾いた道を走って埃だらけの中を集乳車が走っていると、衛生感を感じない。また、大きな吹雪が来た時に除雪をして集乳車が通れる様にするのもプラスの影響になるので、何件か農家が隣接しているところで必要となる舗装整備は大切だと思う。

○上田委員

事業費だけ見ると自分が農家でなければ何でこんなにかけるのかと思うところもあるが、農家周辺の環境整備などもあって農村環境は守られて、地域の魅力が発揮できると思う。事業での整備は前向きな対応でありがたいし、今騒がれている石川県能登の方でも何件か農家もあって、地震や今回の豪雨など大変な思いをしている中で頑張っていると思う。

道路や草地の整備に関して、地域環境として農家側からは河川に与える影響かもしれないけど、一般住民から見える農村環境は車から見た景観などということになると思う。

自分としてももっと農地転用のことや環境のためにやれることもあると思うし、こういう協議会など考える場があれば色々なアイデアを持って皆さんと考えていければと思う。

○宗岡委員

根室地域の農家、特に酪農家は環境関係に意識が非常に高いと改めて感じるので、今回の意見も農業農村整備を進める行政や人材をつくる教育の立場から、勉強させていただいた。

一般の方からのコスト感も、農業農村整備で一番しっかりやらないといけない説明責任で、アウトリーチ活動は土木事業全般で下手なイメージ。広く浅く多くの人を味方にするような形で説明責任をして積み上げていく様な農業農村整備委事業のあり方など、色々なところに目線をおいて、謙虚さがさらに必要だと思う。

○滝本委員

費用対効果を考えると以前はここまでコストは高くなかったが、農業の担い手が少なくなってくることや質のいい日本の食べ物を提供するという観点から、バランスをとって進める必要があると思う。

古い構造物を改築していく際も、災害対応など様々な観点から考えないといけないで、難しいだろうしコストもかかるだろうと思うが、農村環境を改善して、農村に来てもらう人、観光で農場を見る人がどう感じるかもポイントになっているだろうなと感じている。

○宗岡委員

食の視点、環境の視点、外からの目線を改めて教えていただいた。そして災害が元旦の能登の大地震など、近年色々なところで多く発生している。

農業農村工学や農業農村整備の分野も災害対応を非常に重要視しているが、一時期政権が変わった時にインフラ整備が進まない時期があったが、再度政権が変わった際に防災減災国土強靱化という大きなキーワードを元に災害抑制の視点から土木事業を進めているところ。

環境情報協議会の場として、災害防止に役立つ仕事もたくさんしているという事も意識して、こういう協議会を考えていければと思う。

○外山委員

今回はあまり環境に強い影響がある事業は多くなかったと思うが、それぞれの項目の中で過去からこの協議会で話し合われてきた農薬を使わないとかが反映されて生かされていてうれしい限り。

最近では農地転用の話で、再生エネルギーの施設に転用されることも多く、農地景観とかを楽しみに観光客が来た時に太陽光発電パネルがたくさんあるという事もあったりしている。

農地自体が環境保全に寄与している事もあるので、直接協議会の内容とは関係ないかも知れないが農地計画を立てる際に配慮する必要があるかなと思う。

○宗岡委員

農地は本来農業をすることで環境保全に生きる場合もあるが、使われていない状態でも多面的機能を一部発揮することもあると思う。自然環境の保全や災害抑制も含めて頭においておきたい。

この10年近くで議論されてきた、農地内の防風林を簡単に伐採して良いのかどうかや、草地整備して播種したあとの農薬散布のお願いをどうするのかなど、白熱した議論をした内容が全体で同じ方向を見て現場に生かされていることに敬意を表したい。

最後に、協議会冒頭でお願いした本年度の開催通知等、一連の対応がなぜ直前までかかってしまったのかを明確にさせていただく事と、来年度以降について、いつまでに何をするかなどを今年度のうちに委員に示すことを願います。

以上、事務局に進行を戻し閉会